

30

Toda City Library
30th Anniversary Memorial



戸田市立図書館開館30周年記念「作文・絵画コンクール」

絵画幼児部門・最優秀賞作品「絵本をよんでもらっているところ」



戸田市立図書館開館30周年記念誌

平成25年度
戸田市立図書館
開館30周年記念誌



戸田市立図書館

目 次

- 教育長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 戸田市立図書館 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 図書館施設と配置図・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 図書館30年の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・10
- みみずくのみみちゃん・・・・・・・・・・・・・・・・14

- 戸田市立図書館開館30周年記念「作文・絵画コンクール」・・・・・・16
 応募要項・入賞者

- 作文入賞作品<小中学生部門>・・・・・・・・・・・・19
- 作文入賞作品<一般部門>・・・・・・・・・・・・25

- 絵画入賞作品<幼児部門>・・・・・・・・・・・・31
- 絵画入賞作品<小中学生部門>・・・・・・・・・・・・35
- 絵画入賞作品<一般部門>・・・・・・・・・・・・39

- おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42



教育長あいさつ



この度は、戸田市立図書館開館30周年記念事業の作文・絵画コンクールにおいて入賞されました皆様、まことにおめでとうございます。

戸田市立図書館の本館は、図書や記録など必要な資料を収集・整理・保存し、市民の皆様の「知の拠点」として、昭和58年に開館しました。学習やビジネスなど、様々な形で、生涯学習施設として市民の皆様にご利用いただき、開館より30年が経ちました。おかげさまで、今では市内で最も利用いただいている施設のひとつとなっております。

今回、開館30周年を記念して「戸田市立図書館開館30周年 作文・絵画コンクール」を開催いたしました。

作品からは、皆様が図書館を通して、日常生活における楽しさ、時には厳しさを実感していることが伝わってまいります。その素晴らしい思い出にふれることができ、職員一同感銘を受けております。

これからも、市民の皆様にも愛される図書館を目指してまいりたいと考えておりますので、ご支援、ご協力をお願いします。

平成26年5月

戸田市教育委員会 教育長 羽富 正晃

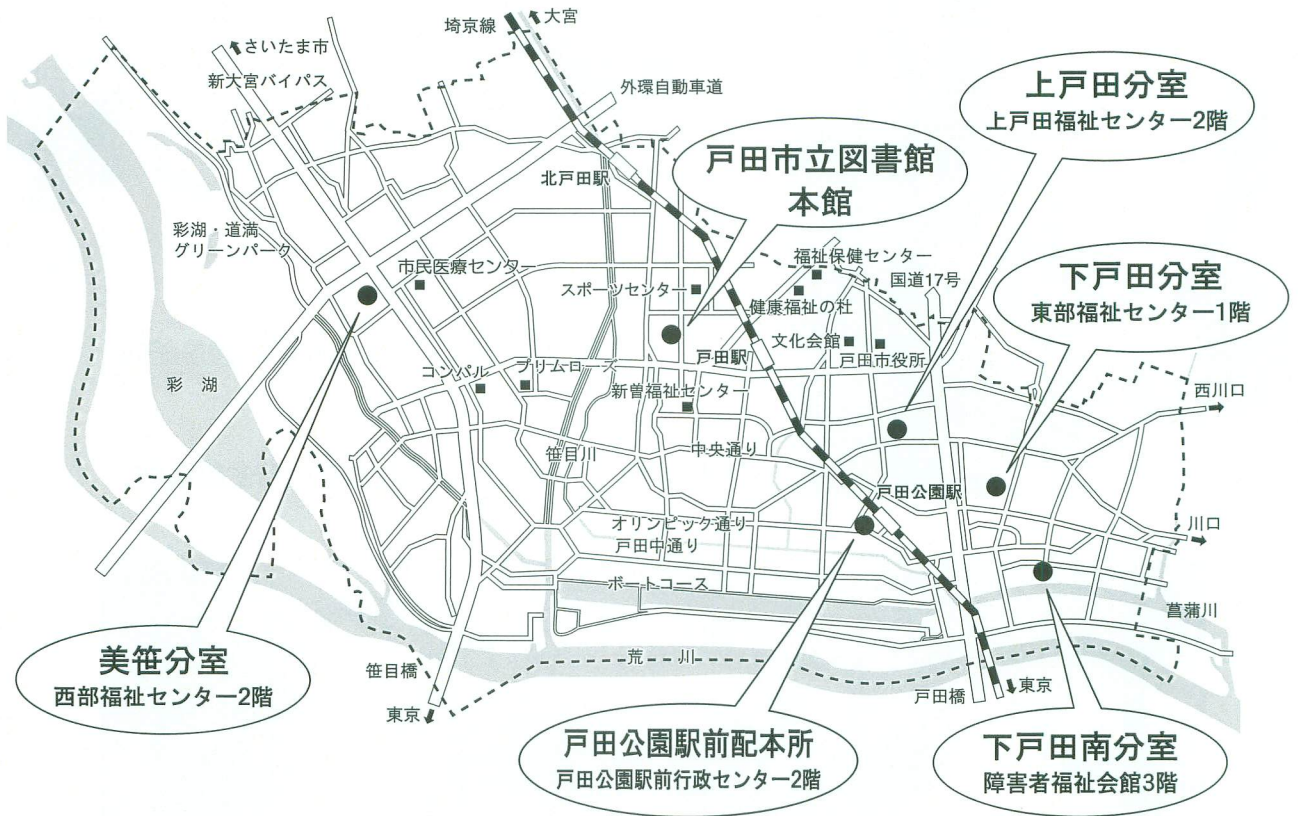
戸田市立図書館の沿革

昭和44年3月	福祉センター内に図書室開室	昭和63年8月	開館5周年記念行事「子どもの1日図書館員」開催
昭和47年3月	福祉センター図書室を上戸田福祉センター図書室に改称	10月	中地下スチール製積層書架納入
6月	西部福祉センター内に図書室開室	11月	開館5周年記念講演会「読書の楽しみ」開催
昭和49年5月	東部福祉センター内に児童図書室開室	平成元年1月	絵本カルタ大会開始
昭和51年11月	市内の福祉センターに公民館を複合施設として設置(上戸田・西部・東部の各福祉センター図書室は中央公民館・西部分館・東部分館図書室となる)	7月	文学講座開始
昭和52年5月	中央公民館新曾分館内に新曾分館図書室開室	平成3年8月	利用者用端末機導入
昭和56年3月	戸田市立図書館建設基金条例公布	平成4年11月	折り紙講座開始
6月	中央公民館に視聴覚ライブラリー設置 市議会で図書館建設の地質調査、設計委託料、用地購入費が可決	平成5年4月	県南5市広域利用を試行から本実施へ
12月	中央公民館に図書館設立準備室設置	7月	コンピュータシステム更新(第3期)
昭和57年1月	図書館・郷土博物館の建物建築確認(1/29・第2381号)	8月	ビデオテープの貸出開始。在勤・在学者への視聴覚資料の貸出開始。貸出冊数・期間の改定(図書・雑誌5冊→6冊、視聴覚資料15日→8日)。書誌検索用にCD-ROM(J-BISC、TRCD)を導入。J-BISC用端末機設置
2月	図書館・郷土博物館の建設工事着工	平成6年2月	開館10周年記念として「戸田市立小・中学校児童生徒読書感想文集」刊行
昭和58年4月	戸田市立図書館設置及び管理条例施行。各公民館図書室が図書館分室に移行、運営	4月	複写サービス取扱要項制定
7月	図書館・郷土博物館の建設工事完了	12月	リサイクル図書コーナー設置
8月	視聴覚ライブラリーが図書館に移管	平成7年1月	旧浦和市との広域利用開始。広域利用者への視聴覚資料の貸出開始
9月	戸田市立図書館協議会発足	4月	資料収集方針、資料除籍基準制定
10月	郵政省から盲人用録音物発受施設の許可を得る	5月	彩-BISC導入
11月	図書館(本館)開館。コンピュータシステム稼働(第1期)。古典講座開始	7月	J-BISC・彩-BISCの利用者・業務兼用の端末機設置
昭和59年1月	映画会(1月)、ストーリーテリング講座、歴史講座(2月)、視聴覚機器技術講習会(3月)、おはなし玉手箱(お話し会、4月)など定例行事開始	8月	平和図書コーナー設置。除籍雑誌のリサイクルフェア実施
9月	図書館報『みみずくだより』創刊	9月	子どもの本の講座開始
11月	戸田市立郷土博物館開館	10月	小学校でのブックトーク開始
12月	子ども向け図書館報『わいわいだより』創刊	平成8年4月	連絡配本車(巡回車)の運行を委託化
昭和60年3月	朗読者養成講座開始	5月	戸田駅、北戸田駅に返却ポストを設置
4月	美笹分室、おはなし玉手箱開始	9月	利用者用端末機増設
12月	児童用の図書案内『ブックリばこ』創刊	10月	貸出方法の見直しについてのアンケート実施
昭和61年8月	福祉青少年会館内に下戸田南分室開室(8/10)	11月	ととけっこの部屋開始
昭和62年1月	戸田公園駅に返却ポストを設置	平成9年4月	雑誌最新号の一夜貸しを中止
4月	県南3市(川口、蕨、戸田)の広域利用の試行開始	平成10年4月	図書館資料の複写手数料の改定(図書資料30円・マイクロフィルム資料50円→全て20円) 新曾分室の廃止
6月	CDの貸出開始	10月	本館の開館時間の延長(火曜日と木曜日、午後7時まで)の試行開始
7月	本館、分室間のコンピュータオンライン化	平成11年12月	コンピュータシステム更新(第4期)
昭和63年4月	県南5市(川口、草加、蕨、戸田、鳩ヶ谷)の広域利用の試行開始	平成12年9月	ホームページ開設。利用者用端末及びインターネットからの予約システム開始
7月	コンピュータシステム更新(第2期)	10月	祝日開館(本館)の試行開始
		平成13年4月	本館の祝日開館、開館時間の延長(火曜日と木曜日、午後7時まで)を本格

	実施		いたCDを開架スペースの専用棚に移し、自動貸出機による貸出も開始
	5月	さいたま市(浦和・与野・大宮市の合併による新市)との広域利用開始	平成19年7月
平成13年	6月	J-BISC・彩-BISCの利用者・業務兼用の端末機廃止	8月
	12月	ホームページのアドレス変更	11月
平成14年	2月	さいたま市との広域利用の協定書調印、本館所蔵視聴覚資料の分室での貸出返却開始	平成20年5月
	4月	コイン式複写機の導入と複写料金の改訂(20円→10円)ブックスタート開始	7月
	4月	おはなしの部屋開始	平成21年3月
	11月	本館調査研究室にパソコン専用席(14席)を設置	3月
平成15年	2月	図書館前庭地下調整池築造工事始まる	4月
	8月	郷土博物館との共催でコールデコット賞受賞絵本の展示会開催	9月
平成16年	2月	IT推進室による市民用インターネット端末を本館調査研究室に設置	
平成17年	3月	図書館前庭地下調整池築造工事完了	11月
	6月	本館調査研究室のレイアウト変更。オーディオコーナー廃止	平成22年6月
	10月	条例改正により本館・分室ともに開館日を増やす(休館日第2・4・5月曜、月末等)	11月
	11月	図書館駐車場・駐輪場等整備工事着工	平成23年3月
平成18年	1月	本館1階開架図書資料へのICタグ貼付開始(53,000冊)	4月
	3月	図書館駐車場・駐輪場等整備工事完了	6月
	4月	「レファレンスだより」創刊	6月
	4月	「子どもの読書活動優秀実践図書館」文部科学大臣表彰受賞	10月
	5月	本館1階及び2階の図書資料へのICタグ貼付(110,000冊)	平成24年4月
	6月	本館に授乳室設置	10月
	7月	「図書館市民講座」「レファレンス講座」開始	11月
	8月	本館視聴覚資料(CD、DVD、ビデオテープ)にICタグ貼付	12月
	10月	新電算システムの導入(第5期)及び本館にICタグ対応自動貸出機、チェックゲートを設置	平成25年7月
平成19年	3月	蔵書検索携帯電話用サイト開設、予約資料のメール連絡開始	7月
	5月	本館地階の図書資料にICタグ貼付(110,000冊)	10月
	6月	本館2階カラーコピー機導入及び複写サービス取扱要項の改正(カラーコピー50円)本館1階に図書資料用除菌ボックス設置	11月
	7月	本館1階カウンター改修、相談カウンターを設置、カウンター内に保管して	平成26年3月
			いたCDを開架スペースの専用棚に移し、自動貸出機による貸出も開始
			視聴覚ライブラリーでのDVD映写機及びDVDソフトの貸出開始
			本館1階螺旋階段下に扇形書架を設置
			本館所蔵の雑誌にICタグ貼付し、自動貸出機による貸出を開始
			本館に自動貸出機2台増設
			分室の図書資料にICタグを貼付したことにより、図書館全資料にICタグの貼付完了
			雑誌リサイクルフェア開催(3月・4月計2回)
			戸田市子どもの読書活動推進計画策定
			4分室の業務委託化(昼休み開室を開始)
			図書館・郷土博物館協議会発足貸出冊数を変更(図書資料・視聴覚資料合せて1人10点まで、15日間の貸出)
			団体への大型絵本の貸出開始
			戸田公園駅前行政センター内に戸田公園駅前配本所開所
			音訳者養成講座開始
			マイクロフィルムの廃止
			マタニティ向けブックスタート冊子を母子手帳発行時に配布
			本館の土曜日・日曜日・祝日の午前9時開館試行開始
			「新しい絵本のリスト」を発行し、配本所内に設置
			川口市・鳩ヶ谷市合併により県南四市広域利用へ変更
			本館の土曜日・日曜日・祝日の午前9時開館本格実施
			図書館システム更新(第6期)
			本館カウンター業務委託開始本館の平日午前9時開館試行
			本館1階開架スペースに「小さな便利スポット」を設置(小さい机4台)
			開館時間変更(本館平日午前9時～午後8時・分室午前9時～午後6時)
			戸田市立図書館における貸出利用登録対象者を隣接市区在住者に拡大(板橋区・北区・朝霞市・和光市)
			本館に防犯カメラ設置
			図書館開館30周年記念行事「みみずくとしょかんういーく」開催
			第2次子ども読書活動推進計画策定

図書館施設と配置図

館名	所在地	休館日	開館時間	創立年月日	延面積
戸田市立図書館 (本館)	戸田市大字新曽 1707 番地 〈TEL〉 048-442-2800 〈FAX〉 048-442-8988	第 2, 4, 5 月曜日及び月末日 (但し、祝日の場合や月末日が土日の場合は開館します。)、年末年始 (12/29~1/4)、特別整理期間	月~金曜日 午前 9 時~午後 8 時 土・日曜日、祝日 午前 9 時~午後 6 時	昭和 58 年 4 月 1 日	3,610.9 m ²
上戸田分室	戸田市上戸田 2-18-13 上戸田福祉センター 2F 〈TEL〉 048-442-1211		206.8 m ²		
下戸田分室	戸田市下前 1-2-20 東部福祉センター 1F 〈TEL〉 048-442-1228		42.2 m ²		
美笹分室	戸田市美女木 5-2-16 西部福祉センター 2F 〈TEL〉 048-421-6737		99.0 m ²		
下戸田南分室	戸田市川岸 2-4-8 障害者福祉会館 3F 〈TEL〉 048-443-1500	第 1, 3, 5 火曜日及び月末日 (但し、祝日の場合や月末日が土日の場合は開館します。)、年末年始 (12/29~1/4)、特別整理期間	午前 9 時~午後 6 時	昭和 61 年 7 月 1 日	98.8 m ²
戸田公園駅前 配本所	戸田市本町 4-15-11 戸田公園駅前行政 センター 2F 〈TEL〉 048-420-9746	年末年始 (12/29~1/3) 特別整理期間	月~金曜日 午前 8 時 30 分 ~午後 8 時 土・日曜日、祝日 午前 9 時 ~午後 5 時 30 分	平成 22 年 6 月 30 日	21.53 m ²



図書館30年の歩み



昭和58年7月 開館準備中の図書館内

昭和58年3月 正面玄関のみみずく石像設置前



昭和58年11月 図書館開館・市長によるテープカット



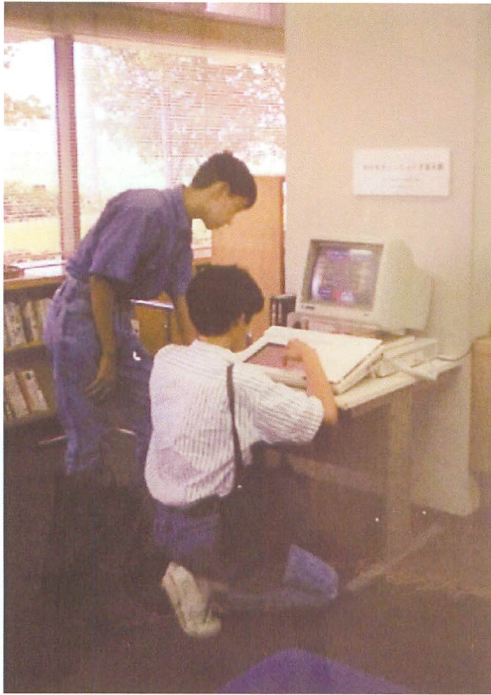
昭和58年11月 図書館開館・1階カウンターの様子



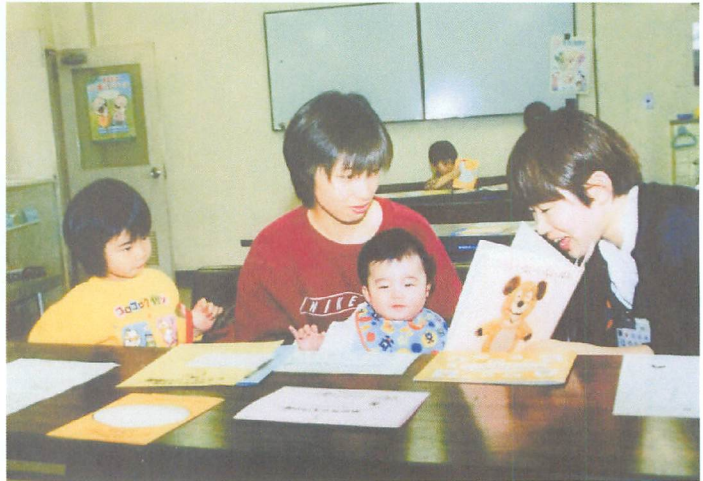
昭和59年4月 「おはなし玉手箱」開始



昭和62年1月
戸田公園駅に返却ポストを設置



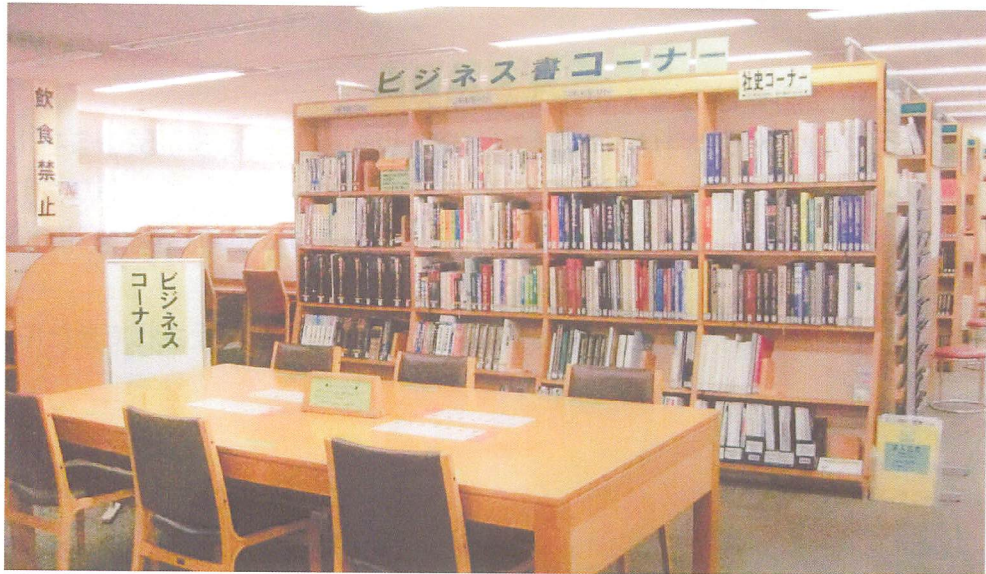
平成3年8月 利用者用端末機導入



平成14年4月 ブックスタート開始



平成15年8月 郷土博物館と共催で「コールデコット賞受賞絵本の展示会」開催



平成17年6月 本館2階にビジネス書コーナー設置



平成18年10月
本館に自動貸出機設置



平成21年8月
図書館・郷土博物館25周年記念行事として「探険ツアー」開催



平成22年6月
戸田公園駅前行政センター内に戸田公園駅前配本所開所

みみずくのみみちゃん

みみちゃんは、戸田市立図書館のマスコットキャラクターです。

「みみずく」と同目のフクロウは、ギリシャ神話では学問や知識、技術を司る神・ミネルバのお使いとされています。そのことから、戸田市立図書館では、みみずくをシンボルとしているのです。

みみちゃんは、図書館で発行している「わいわいだより」(おすすめの児童書を紹介しています!)の4コマまんがで活躍していました。

1984年12月に発行された第1号から、ずっと戸田市の子どもたちに愛されてきたキャラクターです。



みみちゃん

みみずくのこども。男の子か女の子かはなぞ。

食べることが大すぎて、うんどうがにがて。

まだ子どもなので、空をとぶことができません。

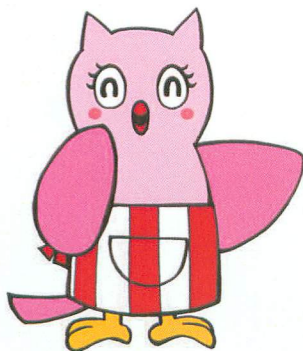
戸田市立図書館のマスコットキャラクターとして、毎日元気にがんばっています。



ニョロちゃん

みみちゃんが「いもうとがほしい」といったときに友だちがプレゼントしてくれたたまごから生まれた。ヘビなので冬になると冬眠します。

みみちゃんのかぞく



みみちゃんのママ

りょうりがじょうず。
やさしくていつも笑顔だけど、
おこらせるとこわい。
エプロンがトレードマーク。



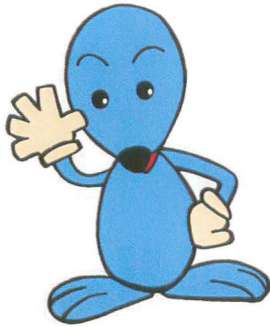
みみちゃんのパパ

やさしくてちからもち。
ネクタイがかっこいい。
いろいろなもようのネクタイ
をもっているらしい。



みみちゃんのおじいちゃん

死んでしまったけど、ゆうれいになっ
てみみちゃんに会いにきてくれる。
こどものころは海賊になりたかったら
しい。



カカちゃん

にほんざるの男の子。みみちゃんともっくと3人でいつもなかよくあそんでいる。鉄道がすき。



グリちゃん

なぞの黒猫。だれもしゃべっているのを見たことがないが、実はしゃべれるらしい。

もっくん

モグラの男の子。ちからもちであたまがいい。みみちゃんが失敗したときはフォローしてくれる。

みみちゃんのなかま



ホーリィくん

みみちゃんのいとこで、おとうさんはアメリカのみみずく。探検家にあこがれている男の子。図書館探検ツアーの隊長としてかつやくしています。

レミさん

みみちゃんのいとこのおねえさん。しらべることが大すき。図書館2階のレファレンスカウンターのマスコットガールとして、みんなのしらべもののお手伝いをしています。



みみちゃんの家系図

みみちゃんの家族は、こんなつながりがあるんです。



—戸田市立図書館開館 30周年記念—

作文・絵画コンクール

みなさまと共に歩んで30周年。

これを記念して図書館との思い出を募集しました。

応募作品総数は、
作文が132点、
絵画が19点でした。
たくさんの素敵な作品を
ありがとうございました。



◆ 作文・絵画コンクール応募要項 ◆

- 【応募資格】 戸田市在住の方
- 【部門】 幼児・小中学生・一般（高校生以上） ※幼児の作品は絵画のみ受付
- 【応募規定】 ①作文（原稿用紙[A4たて・20字×10行・たて書き]に5枚以内。パソコンでの入力も可。※作文用紙はホームページからのダウンロードもできます。）
②絵画（四つ切の画用紙(392×542mm・たて・よこ自由) 水彩絵の具・色えんぴつ・版画・クレヨンによる作品）
- 【タイトル】 自由
（「図書館での思い出」「としょかん、だいすき！」など。）
- 【入賞】 各部門から、最優秀賞1名・優秀賞1名・佳作2名
入賞者には記念品をプレゼントします。入賞作品は「戸田市立図書館30周年記念誌」へ掲載されます。
- 【応募方法】 作品に応募票をつけて提出 ※詳しくは別紙参照
- 【応募先】 戸田市立図書館本館事務室へ持参または郵送。※持参の場合は18時まで。分室・配本所での受取はできません。
- 【宛先】 〒335-0021 埼玉県戸田市大字新倉1707番地
戸田市立図書館本館 30周年事業担当宛
- 【募集期間】 2013年11月1日（金）～2014年2月1日（土）
（郵送の場合2月1日消印有効）
- 【発表・表彰式】 2014年5月上旬に発表予定



入賞者

作文入賞者

小中学生部門	最優秀賞	小山 紋奈
	優秀賞	駒崎 友美
	佳作	今村 美花
	奨励賞	皆上 弥輝 川村 匠
一般部門	最優秀賞	内山 なほ子
	優秀賞	奥野 可奈
	佳作	皆上 千里
		関 由衣

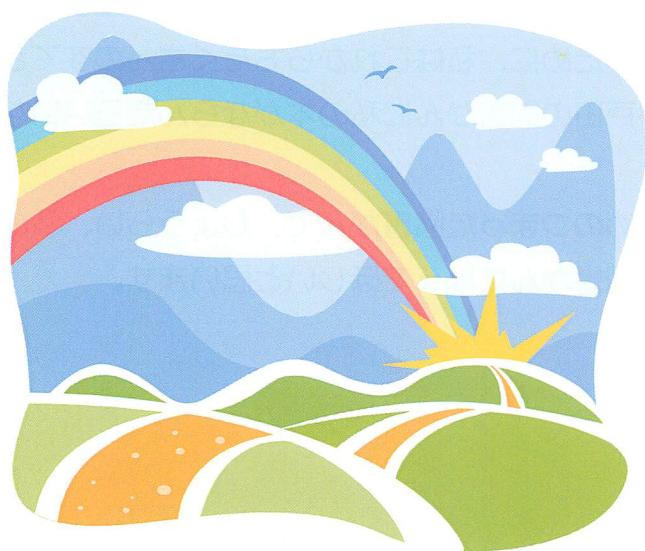
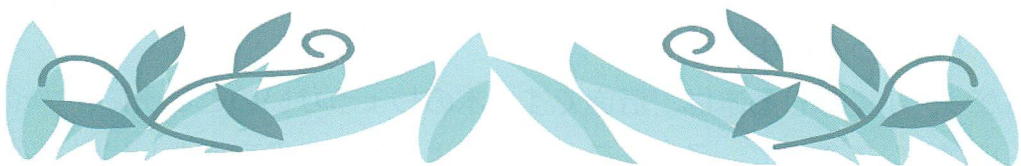
絵画入賞者

幼児部門	最優秀賞	檜山 咲希
	優秀賞	田中 ゆに
	佳作	松浦 准大朗
小中学生部門	最優秀賞	山本 茉奈
	優秀賞	加藤 乃ノ佳
	佳作	今村 美花
		竹林 優苗
一般部門	優秀賞	奥野 可奈



作文入賞作品

<小中学生部門>



最優秀賞

ゆめの図書館

小山 紋奈

図書館には、よみたい本がありすぎて、毎回行くとワクワクぞくぞくします。今、1週間に1回は図書館へ行って本を10さつかりてきていますが、ようちえんのころは、図書館りようカードを新しくつかって早く本をかりてみたかったので、行きたくてしかたなかったです。今は、よみたい本もたくさんできて、いろいろなしゅるいの本がえらびほうだいで、本のかり方や、きかいのつかい方がわからないとかかりの人がやさしく教えてくれます。本やさんとはちがってたのしい本のしょうかいや同じシリーズをさがす手伝いをしてくれたりしてもらっています。

私が今、よくかりる本は、伝きです。本のしょうかいのところに、ナイチンゲールがおいてあって、それをなんとなくよんでみたらむずかしいけれど、なんだかたのしくてそれから、伝きをたくさんかりるようになりました。伝きはすごい人の人生がかいてあって、私のお手本にしていきたいと思うのと、いろいろな人の、人生があじわえるような気がしてきます。そのころのれきしも、べんきょうできるので、これからも、いろいろな人の伝きをよんでいろいろなことを知りたいです。

私のゆめは、絵本さっかになることです。私が本をすきになって図書館に行くようになったきっかけを作ってくれた作しゃのように、こどもたちにゆめをあたえられる絵本さっかになるために、私はこれからもたくさんのすてきな本を読んでべんきょうをして、戸田の図書館に私の本がならんだらいいなと思っています。

私にとって図書館は、ゆめのつまった図書館で、しょうらい、私の本がならんでいるゆめをあたえる図書館になってほしいと思います。

優秀賞

図書館へ行こう！！

駒崎 友美

私の家の近くには、戸田市立図書館があります。戸田市の中でも大きく博物館もあります。いつもたくさんの方が利用しています。この図書館の2階には、多くの方が利用することのできる自習室があります。

私はまだ小学生の頃に、よく3階の博物館を利用していました。本があまり好きではなかった私は、1階や2階はあまり行きませんでした。それから中学生になり、図書館にまったく行かなくなりました。部活も勉強も忙しくなりました。部活が大好きで没頭し、勉強をぜんぜんしなかった私は、だんだん学校のテストの順位が落ちていきました。家で勉強をしようとしても、テレビを見てしまったりして塾以外で勉強をあまりしないことが続きました。とうとう中学3年生の受験シーズンが到来してしまいました。部活も引退し勉強を頑張ろうと思った私は塾で頑張っていました。でも、日曜日は塾が休みで最初の頃は遊んだり、家でよくボケーツとしていました。

ある日、友達から

「日曜日に図書館で一緒に勉強しない？」

と、誘われ、久しぶりに図書館に行きました。図書館は、とても静かで、話している人もいなくみんなが集中していました。私も、空いた日に図書館に行くようにしました。そしたら、みるみるうちに、テストの成績が上がり、学校の成績が上がりました。そして、私になかった集中力ができ、今では勉強を頑張っています。

私には、このような事がありました。もし図書館がなかったりしたら私はどうなったのかと思います。誰もが利用できとても良い所だと思います。私は、これからも図書館を利用し、受験に頑張って合格したいと思います。

佳作

としょかんはたのしい！！

今村 美花

だいすきなとしょかんへ、いつもじてんしゃでいきます。どうしてかという
と、あるくとちょっととおいからです。いついつてもじてんしゃがたくさんと
まっています。みんなとしょかんがだいすきだからだとおもいました。

わたしもだいすきです。としょかんは、かみしばいがあつたり、すきなほん
がたくさんあるからです。そのほんは、えがかわいかったり、だいすきなペン
ギンのえほんがあるからです。

がっこうのとしょしつは2さつしかかりられません。でもとしょかんならた
くさんかりられます。

ずかんやきせつのほんやうすいえほんやぶあついほんやしょくぶつのほんな
どあります。

わたしは、いままでにかりたほんのなかでいちばんだいすきだったほんは、
ケイティのふしぎびじゅつかんシリーズです。

しゅじんこうのケイティは、おばあちゃんとびじゅつかんへいきます。ケイ
ティはかざってあるえのなかにはいって、かいてあるひととおはなししたり、
かいてあるひまわりをとっちゃったりするふしぎなおはなしです。

わたしは、これからもとしょかんへ、ほんをいっぱいかりにいきます。



佳作

大好きな下戸田図書室

皆上 弥輝

私は、ほとんど毎日下戸田図書室に行っています。

なぜかというといまわり読書カードに読んだ本のだいを書いて、学校にてい出して、それが15さつ以上になるとしょうじょうがもらえるからです。

今までのさい高きろくは1カ月で76さつです。それでたくさん下戸田図書室で本をかりたり、学校で本を読んだりします。家ぞくの図書カードまでかりています。

私が出戸田図書室で気に入っているところは、たくさんのしゆるいの本がある、ということです。私は1年生のころはれき史の本が大好きでしたが、さい近はじけんをすいりする本が好きです。りゆうはほかの本とちがって自分もすいりできて楽しくドキドキするからです。

私は毎月しょうじょうをもらっています。しょうじょうをもらってさい高きろくをたっせいできると、なんだかうれしくてもっと読もうとがんばってしまいます。

今月（12月）の目ひょうは100さつ以上にしています。今月も来月もがんばります。

次はまだあまり読んでいない科学の本を読みたいです。戸田市にはたくさん図書館があるとお母さんが教えてくれたので、ほかの図書館にもいきたいです。そして、小学生の間に子ども用の本を全部かりて読みたいなと思っています。

奨励賞

ぼくのとくべつな図書館

川村 匠

ぼくは、おかあさんと週1回ぐらい図書館につれていってくれます。

ぼくが図書館に行くときは、ほとんどどうぶつの本をかります。なぜかと言うと、どうぶつがすきでもっとしりたいからです。あと、しょうらいどうぶつ of じゅういになりたいからです。

ぼくがどうぶつの本をさがすとき、パソコンけんさくをつかいます。しらべたいどうぶつのキーワードをいれると、本をたくさんさがしてくれます。ぼくのさがしている本が出てくるのでやくだちます。

ぼくは、家で本を読むと、しゅうちゅうできません。図書館だと、しずかでおちついているのでゆっくり本をよむことができます。だから図書館で本を読むのがすきなのです。

戸田の図書館には、とくべつなことがあります。それは、3がいにははくぶつかんがあります。戸田のむかしのことを知ることが出来ます。むかしあそびが出来るところがあります。そこでとくいなお手玉をやっていたら、図書館の人に、

「上手だね。」

と、ほめられてうれしかったです。

戸田市の図書館は、はくぶつかんもくつついていて、とくべつにめずらしくて、すごいなって思いました。

今年は、図書館たんけんツアーのイベントにさんかして、もっと図書館について知りたいです。図書館に通って本をたくさんかりたり、読んだりして、図書館となかよくしていきたいです。



作文入賞作品

<一般部門>



最優秀賞

「おはなし玉手箱」と親子の成長

内山 なほ子

私達家族にとって「おはなし玉手箱」で絵本の読み聞かせに出会った事は大きな幸運です。私はもともと子供が好きではありませんでした。電車・バス・飲食店などで騒ぐ子供を注意しない親を苦々しく感じていた方でした。それが、三十代なかばで母親になって以降、逆の立場になりました。子供が騒ぐと肩身が狭いので、新幹線ではデッキに移動、電車やバスは下車。飲食店には入れない。周囲に迷惑を掛けたくないで自宅に数組の親子さんを招くなどしていました。しかし会って間もないママ友さんは自分の友達というわけではありません。うまくお付き合いできず、気持ちがぐすり減る事もありました。

娘が幼稚園に入園した頃「おはなし玉手箱」に通うようになりました。早生まれの娘が絵本に集中しない事に肝を冷やす場面も少なくありませんでしたが、司書の先生と読み聞かせボランティアさん達は嫌な表情一つ見せず、優しく絵本を読んで下さっていました。そこには「絵本の世界、本の魅力を、良い形で子供に伝えたい」というお気持ち以外のものをお見受けできませんでした。見返りを求める様子がない、純度の高い善意に触れる機会などそうあるものではありません。

そして絵本に興味を持つようになった私は「読み聞かせボランティア養成講座 初級編」を受講し、課題図書約280冊分のレポートを作成するため、本館・上戸田分室・戸田公園駅前配本所に通うようになりました。司書の先生方はテキパキとご親切で、私は笑顔で書籍を手渡していただく度に、戸田に住んでよかった！と感じていました。

「おはなし玉手箱」に通って10カ月が経ったある日、4歳の誕生日を目前にした娘が最前列で正座をし、読み聞かせに集中している事に気づきました。娘がスマホやタブレットを操作して動画を見る事を苦々しく感じていた私は、月に2度ある土曜の日に夫も同行させるようになっていました。夫も読み聞かせを楽しむようになり、図書館は家族で行く場所になりました。小さな子供を連れて行く場所がない、と感じていた閉塞感も減ってきている事に気づきました。今では「おはなし玉手箱」は家族の憩いのイベントになっています。これからもずっと続けていって頂きたいと思っています。

優秀賞

図書館は私の宝箱

奥野 可奈

私にとって図書館は、とても大切な思い出が、たくさん詰まっている宝箱のような素敵な場所です。何故なら私の今までの17年間は、本と共に、強いて言えば、この図書館と共にあったからです。

幼稚園生の頃は、「おはなしたまてばこ」を見るために、毎週必ず図書館を訪れていました。文字が言葉になって耳に流れ込んでくる感覚は、私を読み聞かせのとりこにさせました。スタンプがいっぱいになって表彰された時の写真は、今でも家に飾ってあるくらい素敵な思い出です。

小さい頃から本を読む習慣が身についたおかげで、学校の授業で一番好きな科目は国語になりました。調べ物の課題が出た時、最初に思い浮かぶのは図書館です。今では自室の本が増えすぎて家族から、床がぬけたらどうするんだ、と怒られるくらいの本好きになりました。

学年が上がるにつれて、私が利用する図書館のスペースは、1階から2階へと変化していきました。中学生の頃は、1階で本を選んで2階で読了しては、大人になった様な気持ちに浸っていたことを思い出します。

高校に上がった現在では、自習スペースを利用することが多くなりました。ですから図書館の開いている時間が長くなったことは、とても嬉しかったです。

こうして、過去の回想をしてみると、本当に私の人生のうち、随分と長い時間を図書館と一緒に過ごしているのだなと、改めて感じさせられました。これからも図書館をたくさん利用して、さらなる読書家になろうと思います。

佳作

時をつなぐもの

関 由衣

私が戸田市に嫁いでから、7年もの歳月が経ちました。

私が戸田市へ来たばかりの頃、お腹の中に命を授かっていました。大きなお腹を抱え、土地感のない私は近所をぐるぐる廻るだけでしたが、ある日近所から少し足をのばすと、図書館のある会館を見つけ、私は幼少期にタイムスリップしたかの様でワクワクし、私は通うようになりました。

本のおいに独特な静けさは、変わっていく体に不安な未来にモヤモヤとしていた私を包み、落ち着かせてくれる素敵な場所でした。

駆け足で走った様に時は流れ、子供は大きくなり、時と心にゆとりが持てるようになった3年後、ふと図書館を思い出し、静けさに包まれた時がとても懐かしくなり、子供と一緒に出かけました。

子供が見た事のない本の多さに心躍らせていたのを今でも鮮明に思い出します。

「静かに。しー」

と何度も言っては可愛さににやけたものです。

私が本を借りようとした時、子供の目に気づいた司書さんが

「カード作りますか？」

と聞いてくれたのです。

ピカピカの図書カードを手に鼻を膨らませ心を弾ませている子供の顔に幸せを感じました。

子供は幼児からさらに大きくなり、借りる本も少しずつ成長しているのを感じていた所に1冊の本を借りてきました。

その本はお菓子を作る女の子の話で、レシピも載っており、話しすすめて作ったり食べたりすると、主人公と自分が一緒に居る様な本です。

そう思い私もワクワクし幼少期に借りた本でした。

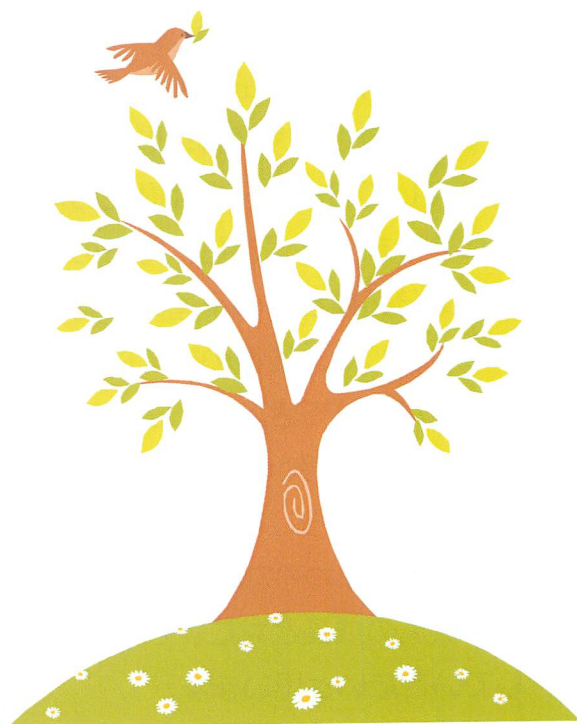
「ママ、これ一緒に作りたい！」

レシピの準備をしながら本を読み、慣れない手つきを見守りながら、昔の自分を思い出していました。作り終わった子供は、満足そうに本を読み返していました。

「ママ、次はこの違うのを作りたい！」

私も同じ事を母に言った様な気がするなと思いました。

本はこんなにも時を縮め巡り巡って出会い、人の思い出も鮮明にする幸せな糸です。私と母と子供を幸せな時でつなげてくれました。



佳作

新しい街での子育てと図書館

皆上 千里

2013年夏、我が家は都内から戸田市に引っ越して来ました。空の広さ、公園の多さ、そして子供の多さという子育てにはピッタリ環境を求めての“移住”でした。3人の子供達が伸び伸びと育ててくれることを願って。

引っ越しから半年が経ち、「やはりここに来て良かった。」という思いを日に日に強くし、幸せだと思っています。

新しい環境を楽しむ反面、大変だったこともあります。長女が学年途中で転入することになり、学校に慣れるまでに親の想像以上に長く時間がかかったのです。少人数の中で育ってきた娘は、大人数の子供達の中で自分の立ち位置を探している様子でした。我が子ながらしっかりしていると思い、当初は心配をしていなかったのですが、自分から人間関係を作っていくことや、大人数だからこそ競争心にとまどっている様でした。

どうしたものかと思案しているうちに、娘の好きな読書に行きあたりました。学校で読書カードを記入し、ひと月毎に読んだ本の冊数を競うことになっていたので。好きな本で友達の輪の中に入り、自信が持てるのならということなし。早速、近所の下戸田図書室で家族5人分のカードを作りました。家族のカードまで総動員して児童書を借りることになりました。下戸田図書室には、児童書が充実しており、好きな歴史の本以外にも様々なジャンルの本を喜んで読むようになりました。また、毎日のように「夕方散歩」と称し、子供3人を連れて娘の気分転換と下の子達の運動も兼ね、図書室とスーパーに出かけるのが日課になりました。往復の道では学校の話やら、面白かった本の感想を聞け、徐々に自信がついてきたことがわかり、ホッとしています。

次は文字に関心が出てきた長男の為にも本を借りに行くことになりそうです。戸田市にはあちこちに図書室があるので、下の子がたくさん歩けるようになれば、散歩でまわりながら利用できればいいなと今から楽しみにしています。

子供達の成長と共に、これからも図書館を利用させてもらって私自身も成長していきたいと思っています。



繪畫入賞作品

<幼兒部門>





最優秀賞 檜山 咲希
絵本を読んでもらっているところ



優秀賞 田中 ゆに
トコちゃんとおぼけのじかん



佳作 松浦 准大朗
あめのひのとしょかん



繪畫入賞作品

<小中学生部門>

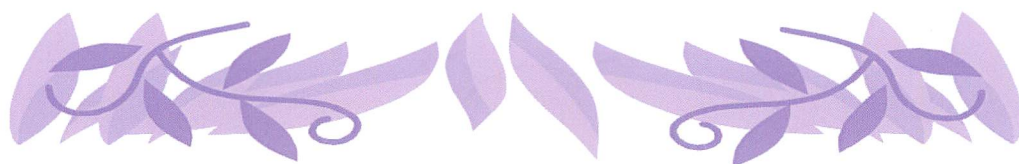




佳作 今村 美花
みんなおいでよ としょかんに



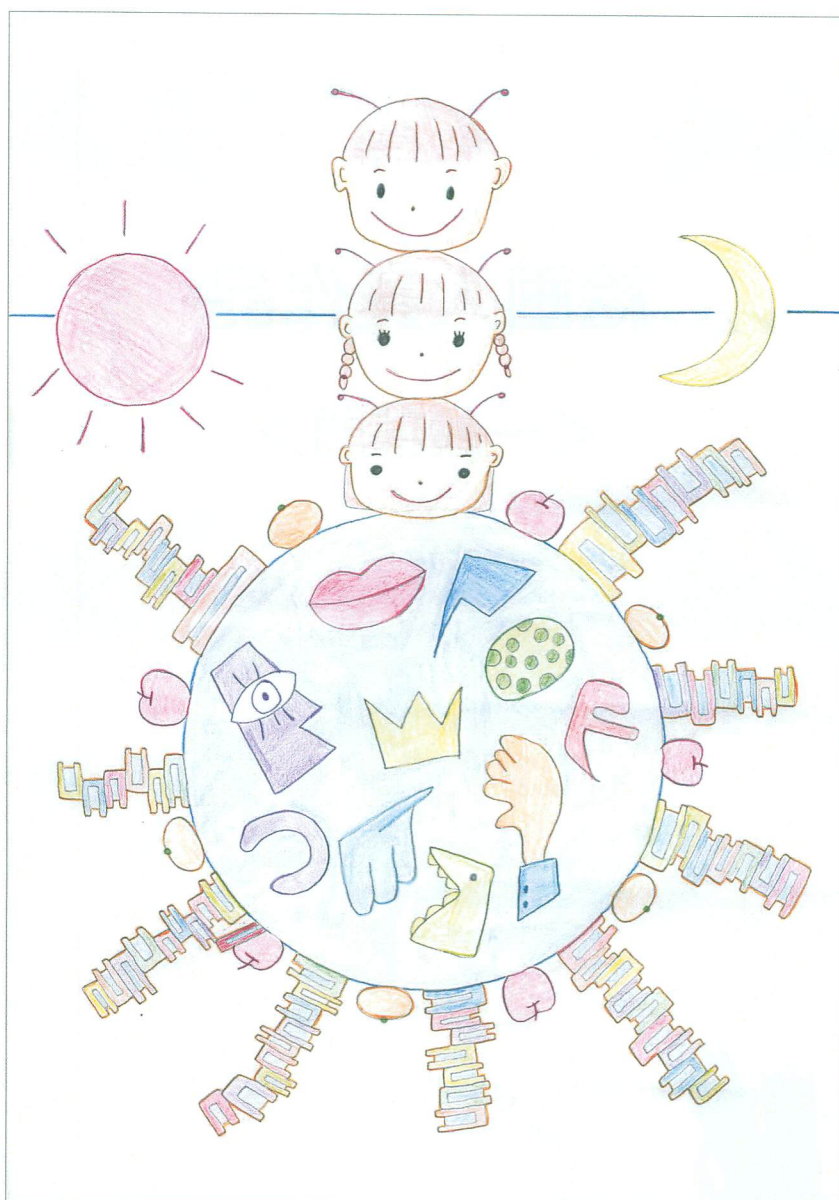
佳作 竹林 優苗
としょかんのしあわせ みみずくかぞく



繪畫入賞作品

<一般部門>





優秀賞 奥野 可奈

Book's Box

おわりに

戸田市立図書館は、平成25年11月に開館30周年を迎えました。市民の皆様と共に歩んだ30年を記念し、平成25年11月1日（金）から7日（木）までの一週間を「みみずくとしょかんういーく」として記念事業を開催しました。

期間中は、図書館本館1階の玄関ホールで「戸田市立図書館の沿革」、当館オリジナルキャラクターの「みみちゃんの家系図」の展示を行いました。11月3日（日）には各種行事を行い、たくさんの方々にご来館、ご参加いただきました。

図書館の沿革では、開館当初の様子や昔の行事の写真も掲示しました。その前で、来館された利用者の方が懐かしそうに見入る姿や、保護者の方が当時の様子をお子さんにお話している様子などもうかがわれ、あらためて、地域に密着した施設であることを実感いたしました。

図書館30周年記念事業として募集した「作文・絵画コンクール」では、当図書館との思い出をテーマにして作品にいただきました。応募作品は、どれも普段私たち職員が直接耳することのない利用者の方々の想いが伝わるもので、職員一同楽しく拝見させていただきました。

図書館は、生涯学習や情報の拠点、次世代の育成など、幅広い年齢層の利用者の目的に合わせた機能を備えた場であります。

今回の、この記念事業を機会に、地域の知の拠点としての役割を果たせるよう、皆様とともに成長していける図書館として邁進していきたいと思っております。

今後も皆様の、ご利用をお待ち申し上げます。

平成26年5月

戸田市立図書館長 熊谷 尚慶

平成26年5月発行

編集・発行 戸田市立図書館

〒335-0021 埼玉県戸田市大字新曽 1707 番地

電話 048-442-2800

Fax 048-442-8988

<https://library.toda.saitama.jp>



平成25年戸田市立図書館開館30周年記念誌